

現代朝鮮語のヴォイス

—— ‘漢字語+하다’, ‘漢字語+되다’ の考察を中心に ——

崔 昌 玉

松 山 大 学
言語文化研究 第37巻第2号（抜刷）
2018年3月

Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 37 No. 2 March 2018

現代朝鮮語のヴォイス

—— ‘漢字語+하다’, ‘漢字語+되다’ の考察を中心に ——

崔 昌 玉

1. 本 稿 の 目 的

本稿の目的は、現代朝鮮語のヴォイス¹⁾、特に‘漢字語²⁾+하다’の‘하다’を‘되다’に変えて、その動詞のヴォイスを変える方法を次の観点から考察、記述することである（現代朝鮮語の動詞をヴォイス的に派生する方法については、2.1で詳しく取り扱うことにする）。それは、(1)その動作の主体や客体が存在論的卓立性においてどのような関係を成立させているかという観点と(2)‘漢字語+하다’の‘하다’を‘되다’に変えることで、その動作のアスペクト的特性がどのように変わり得るかという観点である。

最初の観点は崔昌玉（2007）に基づくところが大きいが、次の観点は浜之上幸（1991）に基づくところが多い（これらの観点は2.1と2.2で詳しく言及することにする）。

本稿の構成は次の通りである。最初に、現代朝鮮語のヴォイスとアスペクトの先行研究を概観する。次に、菅野裕臣他編（1991²⁾）における‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’を整理し、それらを考察、記述する。最後に、本稿で考察しきれなかった今後の課題を提示することにする。

2. 現代朝鮮語のヴォイスとアスペクトの先行研究

2.1. 現代朝鮮語のヴォイスの先行研究

まず、現代朝鮮語において自動詞や他動詞を受身形や使役形に派生する、形態論的な方法を確認することにしよう³⁾。

菅野裕臣他編(1991²:1044)では、現代朝鮮語において動詞をヴォイス的に派生する、形態論的な方法として、次の3つのものを提示する。

- 1) 接尾辞…基本語幹⁴⁾にヴォイス接尾辞 ‘-이-, -히-, -리-, -기-’ 等をつける方法
- 2) 疑似接尾辞…基本は ‘-하다’ であり、使役を表す場合は ‘-하다’ に変えて ‘-시키다’ を、受動を表す場合は ‘-하다’ に変えて ‘-되다’, ‘-받다’, ‘-당하다’ をつける方法
- 3) 分析的な形⁵⁾…i) 第Ⅰ語基⁶⁾ + ‘게 하다’, ii) 第Ⅲ語基⁶⁾ + ‘지다’ という方法

このうち、本稿で取り扱う2)の疑似接尾辞の特徴に言及するのであれば、菅野裕臣(1982:282-283)では、その接尾辞は名詞あるいは名詞+助詞を伴う形で現れる分離用言⁷⁾であるが、①その接尾辞を取り得る名詞としては主に漢字語、外来語があり、②‘名詞+하다’が必ずしも他動を表すとは限らず、自動を表すこともあり、‘하다’を‘되다’に変えると、それが受動を表すだけでなく、自動を表すこともある点などを指摘している(例えば、‘생산하다(生産する)【他動詞】’対‘생산되다(生産される)【受身形】’と‘발전하다(発展する)【自動詞】’対‘발전되다(発展する)【自動詞】’を比較されたい)。

また、現代朝鮮語のヴォイスを考察する方法論も多様である。例えば、서정수(1996)そしてその方法論などを受け継ぐ우인혜(1997)では、現代朝鮮語のヴォイスにおいて典型的な派生方法をヴォイス接尾辞による派生だけに

限定し、その他の派生方法を非典型的なものとして見做している。更に、서정수 (1996:1053, 1057-1058) では、以下のように、形態論的、統辞論的、意味論的 条件を全て備えるものが ‘진피동문 (真の受動文)’ であるとしている⁸⁾。

- (1) a. 개가 닭을 쫓는다. (犬が鶏を追う。)【能動文】
 b. 닭이 개에게 쫓긴다. (鶏が犬に追われる。)【受動文】

서정수 (1996:1057-1058) で提示する形態論的条件とは、無標形としての他動詞 ‘쫓다 (追う)’ と有標形としての受身形 ‘쫓기다 (追われる)’ という形態論的対立が成立するということである⁹⁾。一方、そこでの統辞論的条件とは、能動文には必ず対応する受動文が存在し、能動文で主語であったものが受動文で主語や目的語以外に降格し、能動文で目的語であったものが受動文で主語に昇格するということである。更に、そこでの意味論的条件とは、能動文や受動文は言語外事実 (先の (1) を例にするのであれば、‘犬が鶏を追う’ ということである) は変わらないものの、動作の主体や動作の客体¹⁰⁾ の見方によってそれぞれの文の現れ方が異なるということである。

しかしながら、本稿では、서정수 (1996) と 우인혜 (1997) のヴォイスの考察対象の選定に疑問を呈している。というのも、本稿の調査によれば、菅野裕臣他編 (1991²⁾) で収録しているヴォイス接尾辞による動詞の派生は 174 個¹¹⁾ であるのに対して、疑似接尾辞による動詞の派生は 639 個も存在することがわかっているからである。ヴォイス接尾辞による動詞の派生よりも疑似接尾辞による動詞の派生が生産的であり、その数も多いのに、現代朝鮮語のヴォイスを規定する折、疑似接尾辞による動詞の派生を考察対象から外すのはその正確性が著しく欠如している。それ故、本稿では、疑似接尾辞による動詞の派生も現代朝鮮語のヴォイスに関与する派生方法として見做して、議論を進めることにする。

ところで、本稿が知る限り、ヴォイスの先行研究には形態論的、統辞論的、意味論的観点から考察するものだけではなく、語用論的、認知論的そして機能

=意味論的観点¹²⁾から考察するものまで存在する。

ヴォイスを考察する方法論が様々に存在する中、本稿では Klaiman (1991) で提示した存在論的卓立性による方法論を採用することにする。本稿がこの方法論を採用する理由は、崔昌玉 (2007, 2010b, 2013a) において、ヴォイス接尾辞による動詞の派生のみを考察しているといっても、存在論的卓立性の尺度が現代朝鮮語のヴォイスを考察する折に、かなり有効であることを示しており、ある程度の結果を残していると判断するからである。

以下、Klaiman (1991) の概観及び現代朝鮮語のヴォイス接尾辞による動詞の派生を存在論的卓立性によって考察するとどうなるかを提示することにする。

ここでいう Klaiman (1991) の方法論とは、存在論的卓立性 (ontological salience)¹³⁾ によって、現代朝鮮語の能動文と受動文の対応関係を説明するものである。

この観点を導入すれば、なぜ以下の例文 (3b, 4a) が現代朝鮮語において文法的に受け入れにくい受動文と見做されるかを説明することができる (以下の例文 (3)-(5) は Klaiman (1991:173) から引用している)¹⁴⁾。

- (2) a. 형사가 범인을 쫓는다. (刑事が犯人を追う。)【作例】
 b. 범인이 형사에게 쫓긴다. (犯人が刑事に追われる。)【作例】
- (3) a. 남자가 공을 쫓고 있어요. (男がボールを追っています。)
 b. *공이 남자에게 쫓기고 있어요. (ボールが男に追われています。)

Klaiman (1991:173) では、動作の主体が動作の客体より存在論的卓立性が高い場合、‘追う’という動作において存在論的卓立性が低い動作の客体が主語の位置にたちにくいことを (3b) が文法的に正しいが、意味論的には不自然な理由として指摘する。一方、以下の例文では同様の理由から能動文が文法的に受け入れにくい文になってしまう。

- (4) a. *시간이 나를 쫓고 있어요. (時間が私を追っています。)
 b. 나는 시간에 쫓기고 있어요. (私は時間に追われています。)

Klaiman(1991:173)の指摘に従えば、能動文であろうが、受動文であろうが、動作の主体が動作の客体より存在論的卓立性が高い場合、‘追う’という動作において主語の位置に存在論的卓立性が低いものがたつ文は現代朝鮮語において文法的に受け入れにくいということになる。ただし、先の例文(2)や以下の例文(5)のように存在論的卓立性という観点から動作の主体と動作の客体が同等である場合は能動文も受動文も文法的に受け入れやすい文である。

- (5) a. 그 택시가 저 차를 쫓고 있어요. (そのタクシーがあの車を追っています。)
 b. 저 차가 그 택시에 쫓기고 있어요. (あの車がそのタクシーに追われています。)

以上の考察結果を表で示すと、以下ようになる。

表 1. 例文 (2)-(5) の考察

	動詞の意味	主体	客体	存在論的卓立性の比較	文法的に受け入れやすいかどうか
2a	他動	형사	범인	主体 = 客体	受け入れやすい
2b	受動	형사	범인	主体 = 客体	受け入れやすい
3a	他動	남자	공	主体 > 客体	受け入れやすい
3b	受動	남자	공	主体 > 客体	受け入れにくい
4a	他動	시간	나	主体 < 客体	受け入れにくい
4b	受動	시간	나	主体 < 客体	受け入れやすい
5a	他動	택시	차	主体 = 客体	受け入れやすい
5b	受動	택시	차	主体 = 客体	受け入れやすい

つまり, Klaiman(1991:173)の議論によれば, ‘-이-, -히-, -리-, -기-’ 受動文が存在するかどうかは動作の主体と客体の存在論的卓立性の尺度によって決定される場合があるということになる。

以上の Klaiman (1991) の議論は, 存在論的卓立性によって, 現代朝鮮語の受動文, 特にヴォイス接尾辞によるものを説明しているものである。崔昌玉 (2010b) では, この存在論的卓立性によって, 現代朝鮮語の受動文を類型化しようと試みる。

崔昌玉 (2010b) では, (ヴォイス接尾辞により受身形に派生した用言を含む) 受動文を (1) 有生性の尺度によって, 動作の主体と客体にどのくらいの卓立性が置かれるか, (2) 動作の主体が明示されるかどうか, (3) 収集した用例においてアスペクトを表す形式¹⁵⁾を伴っているかどうかという3つの観点から類型化している。

崔昌玉 (2010b:98-99) の受動文の類型化を示すと, 次のようになる。

典型的な受動文

[動作の主体が明示される]

(6) 그는 나이도 잊고 어머니에게 안긴다.¹⁶⁾ (彼は年を忘れ, 母に抱かれる) 연,
p.1220

[動作の主体が明示されないが, 文脈から特定できる]

(7) 외환달리는 ‘타고난 승부사’ 라고 불린다. (外国為替ドルは ‘生まれつきの勝負師’ と呼ばれる。) 조 93/10/25, 9 面

自動詞文

[動作の主体が明示されるが, 外部からの影響は未知]

(8) 피로가 쌓인다. (疲労がたまる。) 소, p.1180

状態相¹⁷⁾

[動作の主体が確定できず, 地理的状況などを表す]

(9) 산은 온통 울창한 숲으로 덮여 있다. (山は全て鬱蒼とした森で覆われてい

る。)민【유재현, 『유재현의 역사 문화기행: 메콩의 슬픈 그림자. 인도차이나』, (주)창비, 2003】

受動というより他の意味を表す文

[動作の主体が明示されず, また動作の主体の影響に関わらず, 動作の客体がその動作を受け入れる可能性/潜在性があることを示す¹⁸⁾]

(10) 논은 잘 갈려 있다. (田はよく耕されている。) 연, p.35

崔昌玉 (2010b) は, ヴォイス接尾辞による動詞の派生を (1)動作の主体と客体が存在論的卓立性によってどのような関係を成立させているかという観点, (2)受身形のアスペクト的特性は何かという観点, そして (3)受動文においてその主体が明示されるかどうかという観点から考察し, (ヴォイス接尾辞による動詞の派生を含む) 受動文を類型化している。本稿では, 崔昌玉 (2010b) で使用した観点のうち, (1)と (2)の観点を採用し, 疑似接尾辞による動詞の派生にそれらの観点を適用しようと考えている。

2. 2. 現代朝鮮語のアスペクトの先行研究

現代朝鮮語には, その動詞のアスペクトを表す形式が2つ存在する。この2つの形式は動詞が自動を意味するか, 他動を意味するかによって, その伴い方が異なる。つまり, 動詞が自動詞であれば, ‘Ⅰ - 고 있다’ と ‘Ⅲ 있다’ どちらも伴うことができ, 動詞が他動詞であれば, ‘Ⅰ - 고 있다’ しか伴うことができない。自動詞が ‘Ⅰ - 고 있다’ を伴えば, 動作の進行を表すのに対して, ‘Ⅲ 있다’ を伴えば, 動作の結果状態を表す。一方, 他動詞が ‘Ⅰ - 고 있다’ を伴えば, 動作のアスペクト的性質によって動作の進行と動作の結果状態どちらも表す場合があり得る。

これらを正確に説明するために, 例文を提示する (以下の例文は全て作例である)。

- (11) a. 지금 가고 있어요. (今, 行っている途中です。)【作例】
 b. 가 있을텐데요. (行って, (そこに)いるはずですが。)【作例】
- (12) a. 지금 입고 있으니까 잠깐만 기다려 줘요. (今, 着ている途中だから, 少しだけ待ってください。)【作例】
 b. 예쁜 옷을 입고 있네요. (かわいい服を着ていますね。)【作例】

(11a)はある場所に行く途中を表し, (11b)はある場所に行き, 到着し, そこにいることを表す。これらは‘I -고 있다’と‘Ⅲ 있다’によって, その意味が異なっている。一方, (12a)は着ている途中を表し, (12b)は着ている状態を表す。これらは同じ‘I -고 있다’を伴っているにも関わらず, その意味が異なる。

以上のことから現代朝鮮語では, 自動詞であれば, アスペクト形式‘I -고 있다’と‘Ⅲ 있다’どちらも必ず伴うことができ, 他動詞であれば, アスペクト形式‘I -고 있다’を必ず伴うことができると多くの人が認識するだろうが, 自動詞‘죽다 (死ぬ)’や‘앉다 (座る)’のように‘Ⅲ 있다’しか伴わない動詞もあれば(ある特定の文脈では, これら動詞も‘I -고 있다’を伴うことがある), 他動詞‘닮다 (似る)’のように‘I -고 있다’と‘Ⅲ 있다’どちらも伴わない動詞もある¹⁹⁾。

浜之上幸(1991)では, これら2つの形式と動作の主体が変化するかどうか, その動作の主体と客体がどのような関係にあるかに着目し, 現代朝鮮語の動詞をアスペクト的観点から分類する。

まず, 浜之上幸(1991:8)では, 言語外的な事象が生起して終了していく一連の段階における位置づけを局面(phase)と呼び²⁰⁾, 以下の図を提示する。

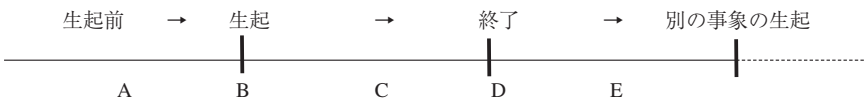


図1. 浜之上幸(1991:7)の図

そして、浜之上幸(1991:22-27)では、以下の動詞を規定する。それは、その動詞が‘I -고 있다’と‘III 있다’の形式を持つかどうかで動作動詞と状態動詞に分かれ、動詞が‘I -고 있다’を伴い、それが具体性・動作性を持つかどうかによって、動作性動詞と状態性動作動詞に分かれ、主体変化後の局面を表す形式を持つかどうかで主体変化動詞と主体非変化動詞に分かれるということである(後に、浜之上幸(2016:24-25)では、主体変化動詞を限界動詞、主体非変化動詞を非限界動詞として術語を変えて、現代朝鮮語のアスペクト論を進めている。しかし、本稿では、浜之上幸(1991)に従い、議論を進めることにする)。

以上の規定をし終えて、浜之上幸(1991:29-78)では、現代朝鮮語の動詞をアスペクト的観点から考察し、分類する。その中でも特に本稿が関心を持つのは、ヴォイス接尾辞、疑似接尾辞を伴う動詞をアスペクト的観点から考察した部分、すなわち浜之上幸(1991:60-78)である。

浜之上幸(1991:66-70)では、疑似接尾辞‘되다’を伴う動詞をアスペクト的観点から考察しているが、次の特徴を指摘する。それは以下の例のように、(1)‘I -고 있다’と‘III 있다’どちらの形式を持つものが多数であるが、主体変化動詞というよりも状態性動作動詞を表す場合が多い点、(2)‘I -고 있다’の形式しか持たない主体変化動詞が少ない点である。以下は浜之上幸(1991)の記述に基づき、本稿が収集した例文である。

- (13) 캐나다 토론토대에선 여기서 한발 더 나아가 소도세포를 고분자 물질로 싸서 이식하는 방법이 개발되고 있다. (カナダのトロント大学ではここから一歩進んで、臍島細胞を高分子の物質で包み、移植する方法が開発されつつある。)민【『조선일보 생활 (93)』, 조선일보사, 1993】
- (14) 1 주일 일정으로 네덜란드 전국을 일주하는 자전거 여행 코스까지 개발되어 있다. (一週間の日程でオランダ全国を一周する自転車旅行のコースまで開発されている。)민【『조선일보 과학 (93)』, 조선일보사, 1993】
- (15) 그래서 그런지 영국에서는 이 영화의 상영이 아직도 금지되고 있다. (だから

らなのかイギリスではこの映画の上映が禁止されている。)민 【『한겨레신문, 칼럼 (92)』, 한겨레신문사, 1992】

- (16) 일반 국민의 승용차 구입은 엄격히 금지돼 있지만 유독 낡은 미국제 승용차만은 거래가 가능하다. (一般国民の乗用車購入は厳格に禁止されているが, 唯一アメリカ製の乗用車だけは取引が可能だ。)민 【『조선일보 기타, 해설 (연재, 90)』, 조선일보사, 1990】

- (17) 대부분의 식민지 주민은 본국과는 다른 원리로 통치되고 있었으며, 식민지를 분리된 실체로 인정하는 영국의 경우보다도 오히려 정치적인 자유는 억압되는 상황에 놓여 있었기 때문이다. (大部分の植民地の住民は本国とは異なるやり方で統治されており, 植民地を分離した実体として認定するイギリスの場合よりもむしろ政治的な自由は抑圧される状況に置かれているからだ。)민 【강만길 외, 『한국사』, 한길사, 1994】

浜之上幸 (1991:67-69)では, (13)-(14)の‘개발되다 (開発される)’と(15)-(16)の‘금지되다 (禁止される)’を‘I - 고 있다’, ‘III 있다’どちらの形式を持つ動詞 (前者の‘개발되다 (開発される)’は主体変化動詞であり, 後者の‘금지되다 (禁止される)’は状態性動作動詞である)として, (17)の‘통치되다 (統治される)’を‘I - 고 있다’の形式しか持たない動詞 (‘통치되다 (統治される)’は主体非変化動詞である)として提示する²¹⁾。

本稿は, 浜之上幸 (1991)の方法論を採用し, ‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’をアスペクト的観点からも考察しようと試みるものである。

3. 現代朝鮮語の‘漢字語+하다’, ‘漢字語+되다’について

3. 1. ‘漢字語+하다’, ‘漢字語+되다’を取り扱った先行研究

‘漢字語+하다’の‘하다’を‘되다’に取り換え, その動詞のヴォイスを変える疑似接尾辞の研究は韓国本土では, それほど詳細になされてこなかった。こ

の理由としては서정수 (1996) や우인혜 (1997) での議論のように、現代朝鮮語のヴォイスで中心的に取り扱われるのはヴォイス接尾辞による動詞の派生であって、疑似接尾辞による動詞の派生は周縁的であるという考え方が韓国本土で一般的であった点を取り上げることができる。また、疑似接尾辞による動詞の派生も取り扱う研究があっても、ヴォイス接尾辞による動詞の派生や分析的な形による動詞の派生と一緒に研究対象としていたりして、疑似接尾辞による動詞の派生のみを取り扱った研究はそれほど多くないのが実態である²²⁾。

本稿では、現代朝鮮語の研究において本格的に疑似接尾辞による動詞の派生を個別に取り扱ったのは、生越直樹 (1982) が最初で、柴公也 (1986)、生越直樹 (1992, 2001a, 2001b) に引き続いていると考える。ここでは、特に生越直樹 (2001a) を概観することにする。

まず、生越直樹 (2001a:93-94) では、生越直樹 (1982) と柴公也 (1986) を整理して、次の観点から‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’を使い分けるとしている²³⁾。その観点はよく似通っていて、(1) 動作・状態変化が主語の持つ力によるのか、主語以外の力によるのかということと、(2) 主語の動作や状態の変化が主体的に行われたか否かで、‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’が使い分けられるということである。

ところで、生越直樹 (2001a) では、例えば‘발달하다 (発達する)’と‘발달되다 (発達する)’のように、どちらも自動詞として使われる場合に焦点を当て、その場合の‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’の使い分けの条件を明らかにしようとしている。本稿では、以下にそれらの例を提示することにする。

- (18) 유기 합성 화학은 빌러가 1828 년 실험실에서 요소를 합성한 이후 1 백 60 여년 동안 눈부시게 발달했다. (有機合成化学はヴェーラーが 1828 年, 実験室で要素を合成した後, 160 年余りの間, 輝かしく発達した。)민 【『조선 일보 과학 (93)』, 조선일보사, 1993】

- (19) 실용적인 지식이 축적되고 발전되어야 생활이 향상되고 문명이 발달된다.

(実用的な知識が蓄積され, 発展して初めて, 生活が向上し, 文明が発達する。)민【조동일, 『우리 학문의 길』, 지식산업사, 1993】

(18)-(19)は本稿で収集した ‘발달하다 (発達する)’ と ‘발달되다 (発達する)’ の例文であるが, その意味の相違はどこにあるか判然としない。

生越直樹 (2001a:91-92)では, 菅野裕臣他編 (1991²)における ‘漢字語 + 하다’ と ‘漢字語 + 되다’ どちらも自動詞として使用されるものを考察対象として選定し, それぞれの動詞を考察している。それらの用例考察を通じて, 生越直樹 (2001a:85)では, ‘漢字語 + 하다’ が使用される条件として①主体の力・活動によって事態が引き起こされる場合, ②主体に対する他からの働きかけや影響がない場合があると提示し, ‘漢字語 + 되다’ が使用される条件として主体に対して他からの働きかけや影響がある場合があると提示する。

更に, 生越直樹 (2001a:82)では, 次の使用条件を付け加える。それは ‘漢字語 + 하다’ が事態の実現・発生に注目している場合に使用されること, ‘漢字語 + 되다’ が事態の結果状態に注目している場合 (話し手に影響が及びながら, あるいは話し手が関心を持ちながらも事態に関与できない場合) に使用されることである。本稿では, 以下の例を提示する。

(20) 주말여행이 증가하면 관광산업도 발전한다. (週末旅行が増加しながら, 観光産業も発展する。)민【『동아일보 2002 년 기사: 오피니언』, 동아일보사, 2002】

(21) 이양호 전 국방장관의 군사장비 구입과 관련한 메모제공 사건은 그가 경전투 헬기, 비행장 경비용 장갑차 구매에도 개입했을지 모른다는 의혹으로까지 발전되고 있다. (イ・ヤンフオ前国防長官の軍事装備購入と関連した メモ提供事件は彼が戦闘ヘリ, 飛行場警備用装甲車の購買にも介入したかもしれないという疑惑にまで発展している。)민【『경향신문 96-10 사설』, 경향신문사, 1996】

(22) 비극에서는 의미와 일상적 생존이 서로 대립한다. (悲劇では意味と日常の生存が互いに対立する。)민【김윤식, 『운명과 형식』, 술, 1992】

(23) 벌레가 타고난 재능으로서는, 이 두 가지 점이 항상 정반대로 대립된다. (虫が生まれつきの才能としては, この2つの点が常に正反対に対立する。)민【J.H. 파브르, 『곤충기』, 마당미디어, 1994】

(20)-(23)は生越直樹(2001a)の議論に基づき、本稿が収集した例文である。例文を収集する過程で、(20)や(22)のような‘漢字語+하다’は文末に現れることが多く、(21)や(23)のような‘漢字語+되다’は連体形であったりして、‘漢字語+하다’に比べると、文末に現れることはそれほど多くないことは判明した。ここで提示した例文は前後の文脈が少なかったり、ほぼなかったりするもので、生越直樹(2001a)の議論を正当化できるものでもないし、それを否定するものでもない。ただし、(20)を考察しても、周りの状況が観光産業を発展させているようにも理解できるし、(22)に至っては、意味と日常の生存が相互に対立することを表しているのも、主体だけではなく他のものの影響もあるように思える。一方、(21)にしろ、(23)にしろ、主体以外の力が働いているようにも見て取れるが、特に(23)では、主体の力でそのようになったとも言えなくはない。

生越直樹(2001a)は、それぞれの動作の主体がその動作にどのように関与しているか、それぞれの動作のアスペクト的特性が何であるかによって、‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’が使い分けられているのではないかという問題提起をおこなっている。ただ、生越直樹(2001a)の議論はあまりに意味論的な観点からの考察にその焦点が当てられており、本稿はこの論文の概観を通じて、形態論的、統辞論的観点からの考察も‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’には必要であると再認識した。

本稿では、生越直樹(2001a)の言及も念頭に入れつつも、議論の焦点を意味論的観点からの考察に傾きすぎることなく、まずは形態論的観点、統辞論的観

点から‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’を考察し、それぞれの動詞を記述しようと考えている。

3. 2. 菅野裕臣他編 (1991²⁾)における‘漢字語+하다’, ‘漢字語+되다’

先にも言及したが、菅野裕臣他編 (1991²⁾)において‘漢字語+하다’の‘하다’を‘되다’に変えて、そのヴォイスを転換させているものとして記述されているのは639個ある²⁴⁾。

本稿では、次の点を踏まえて、語彙の選定をしている。それは、漢字語であっても、‘가하다’, ‘관하다’, ‘대하다’のような単音節の漢字語に‘하다’がついたものを考察対象から外している。これらは‘에 관하여(に関して)’や‘에 대하여(について)’などの慣用句的用法もあり、十分に記述するのに値する対象であるが、本稿で取り扱う考察対象はあくまでも‘漢字語+하다’の‘하다’を‘되다’に変えて、そのヴォイスを変えるものであるからである。

また、本稿で考察対象とする‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’の漢字語は2音節以上のものである。更に、本稿では、次の点も考慮している。それは‘구경(見物)’や‘이바지(貢献)’のように、現在では漢字語とは判断しにくいものも考察対象としていることである。

以下の表は菅野裕臣他編 (1991²⁾)を整理したものである(割合は小数点第二位を四捨五入して、算出している)。

表 2. 菅野裕臣他編 (1991²⁾)における‘漢字語+하다’, ‘漢字語+되다’

‘漢字語+하다’が表す意味	‘漢字語+되다’が表す意味	その数
他動	受動	363 個(56.8%)
他動	自動	28 個(4.4%)
他動	自動, 受動	2 個(0.3%)
自動	受動	9 個(1.4%)
自動	自動	74 個(11.6%)
自動, 他動	受動	3 個(0.5%)

自動, 他動	自動	1 個 (0.2%)
自動, 他動	自動, 受動	1 個 (0.2%)
その他 ²⁵⁾		158 個 (24.6%)
合計		639 個 (100%)

菅野裕臣他編 (1991²⁾) の記述を整理すると, ‘漢字語 + 하다’ が他動を表し, その ‘하다’ を ‘되다’ に変えると, 受動を表す場合が全体の 56.8% と大多数であることがわかる。

4. 本稿の考察

まず, 本稿で取り扱う用例について言及することにする。本稿では, 以下の点に留意しながら, 用例を収集している。それは, (24) や (25) のように, ‘漢字語 + 되다’ を考察する時, 格助詞 ‘가/이 (が)’ を伴い, 副詞 ‘안 (~しない)’ が入る場合は考察対象とはしないということである。

(24) 꼭 그 자리에서 공부해야 한다는 법도 없고, 공용 장소인 도서관에서 그 자리가 나의 사유물이 될 수도 없지만 누군가 그 자리에 앉아 있으면 그날은 하루 종일 **공부가 안 된다**. (必ずその席で勉強しなければならないということもなく, 公共の場である図書館でその席が私の所有物になり得もないが, その席に座っていれば, その日は一日中, **勉強にならない**。)민【쌍용 사회부 편집실, 『여의주 / 젊은 그대』, 쌍용, 1994】

(25) 그런데 그런데…… 언니는 **취직이 안 됐다**. (ところで, とこで…お姉さんは**就職がだめだった**。)민【이오덕엮음, 『이사 가던 날』, 창작과 비평사, 1991】

(26) 그리하여 공적인 수사가 말하는 사회적인 행복에 맞서는 **비판이 된다**. (そうして, 公的な修辭が述べる社会的な幸福に相対する**批判になる**。)민【김우창, 『심미적 이성의 탐구』, 솔, 1992】

これは‘가/이 되다’が‘になる’を表したり, ‘안 되다’が‘だめだ/できない’を表したりするからである。

しかしながら, ‘안 (～しない)’を伴っていない場合には, 以下のように考察対象とすることもある。

- (27) 비록 제한적인 공격이 될지라도 한반도 상공에 폭탄을 적재한 군용기가 비행 폭격한다는 가정은… (中略) (かりに限定的に攻撃されたとしても, 朝鮮半島上空に爆弾を積載した軍用機が飛行爆撃したという仮定は) 민 【김원일, 『삶의 결 살림의 질』, 세계사, 1993】

次に, 本稿では, 能動文や受動文がどのくらい出現し, それぞれの無標形と有標形がどのような語形を伴って出現したか等も考察対象から除外することにする。この理由の1つには受動文が能動文に比べて, あまり出現せず, 用例を収集する小説等の種類によっても, それらの現れ方が異なるからである。

例えば, Shibatani (1988:95) では, 収集した日本語の 508 の例文のうち, その 82% が能動文であるのに対し, その 18% が受動文であると報告している。また, そこでは新聞や科学文書の受動文の割合が 25% から 32% であるのに対し, 小説や随筆の受動文の割合が 5% から 7% であるとも報告している。一方, Shibatani (1988:95-96) では, Svartvik (1966:46) の報告を引用しながら, 英語の科学文書において 32% が受動文, 68% が能動文であり, 英語の小説において 5% から 7% が受動文, 73% から 95% が能動文であるとしている。このような能動文と受動文の現れ方の相違は現代朝鮮語の受動文にも見て取れることができる²⁶⁾。

以下, 菅野裕臣他編 (1991²⁾) における疑似接尾辞による動詞の派生, 特に ‘漢字語 + 하다’ の ‘하다’ を ‘되다’ に変えて, それぞれ他動が受動を意味するものと自動が自動を意味するものを中心にを考察し, 記述することにする。

4. 1. ‘漢字語+하다’가他動を表し, ‘漢字語+되다’가受動を表すもの

まず, 以下の例文を提示することにする。

- (28) 환경부는 5월 경남 합천에 연간 처리능력 2,500톤 규모의 폐비닐중간처리 시설을 완공하고 수집된 폐비닐을 재생비닐 원료로 가공하기로 했다. (環境省は5月, 慶尚北道ハプチョンに年間処理能力2,500トン規模の廃棄ビニール中間処理施設を完工し, 収集した廃棄ビニールを再生ビニールの原料に加工することにした。)민 【『한국일보 96-02 과학』, 한국일보사, 1996】
- (29) 곰브리치에 의하면 눈의 망막에 비친 상은 다시 두뇌의 작용에 의해 가공된다. (ゴンブリッジによれば, 目の網膜に映された像は再び大脳の作用によって加工される。)민 【김태환, 『푸른 장미를 찾아서』, 문학과지성사, 2001】
- (30) 추리 소설은 근거 없는 주관적 믿음과 객관적 · 실체적 진실의 엄격한 분리에 기초를 두고 있으며, 이성이 이런 진실에 접근할 수 있다고 가정한다. (推理小説は根拠ない主観的な信頼と客観的で実体的な真実の厳格な分離に基づいており, 理想がこのような真実に近づくことができると仮定する。)민 【김태환, 『푸른 장미를 찾아서』, 문학과지성사, 2001】
- (31) 그럼에도 이들 개념들이 보편적인 것으로 가정되지 않고 저자가 특정한 역사적 시기와 환경을 고려하다가 은연중에 추출된 것이라고 가정된다. (それにも関わらず, これらの概念が普遍的なものとして仮定されず, 著者が特定の歴史的時期と環境を考慮している中で, ひそかに抽出されたものと仮定される。)민 【강명구, 『대중문화의 비판적 해석』, 민음사, 1994】
- (32) 나는, “나도 한때 소설을 썼었지.” 하고 헛모깃을 보일 증거로 소설집까지 이미 간행했다. (私は, “私もある時, 小説を書いたっけ。”と悪あがきをみせる証として小説集まですでに刊行した。)민 【이인성, 『마지막 연애의 상상』, 솔, 1992】

(33) 임진왜란이 있기 조금 전에 중국에서는 { 산법통종 } 이라는 산법서가 간행되었다. (文禄・慶長の役がある少し前, 中国では {算法統宗} という算法書が刊行された。) 민 【김용운, 『일본인과 한국인의 의식구조』, 한길사, 1985】

(28)は‘가공하다(加工する)’の例文であり, (29)は‘가공되다(加工される)’の例文である。(28)の動作の主体は環境省という団体名詞²⁷⁾であり, 動作の客体は廃棄ビニールである。一方, (29)の動作の主体は‘에 의해(によって)’で明示され, 大脳の作用であり, 動作の客体は像である。存在論的卓立性の観点から考察すると, (28)は動作が卓立性の高いものから卓立性の低いものへと移行していることを表すし, (29)は動作が卓立性が同等のものから卓立性が同等のものへと移行していることを表している。(30)‘가정하다(仮定する)’と(31)‘가정되다(仮定される)’に言及すると, 動作の主体が明示されていないが, どちらの主体も存在論的卓立性において高いものであるし, どちらの客体も存在論的卓立性において低いものである。(32)‘간행하다(刊行する)’と(33)‘간행되다(刊行される)’も動作の主体が明示されているかどうか異なるだけで, (30)と(31)の考察と同じことがいえる。これらの考察結果を整理すると, 以下ようになる。

表 3. 例文 (28)-(33) の考察

例文	動作の主体	動作の客体	存在論的卓立性の比較	その文が表す意味
(28)	環境省	廃棄ビニール	主体>客体	他動
(29)	大脳の作用	網膜の像	主体=客体	受動
(30)	人	推理小説	主体>客体	他動
(31)	人	概念	主体>客体	受動
(32)	私	小説集	主体>客体	他動
(33)	中国の役人など	算法書	主体>客体	受動

本稿の考察を通じて, ‘漢字語+하다’の‘하다’を‘되다’に変えて, 他動詞から受身形に派生する 363 個の大部分が能動文や受動文において, (動作主が

明示されているかどうかという相違があるものの)動作が存在論的卓立性が高いものから低いものに、あるいは存在論的卓立性が同等のものから同等のものに移行することが判明している。

次に、それぞれの動詞をアスペクト的観点から考察することにしよう(例文(13)-(14)は先に提示したものを再録したものである)。

(34) 이를 위해 북한의 유엔 가입으로 연방제 통일 실현 분위기가 한층 고조될 수 있다는 새로운 이론을 그들은 개발하고 있다. (このため北朝鮮の国連加盟で連邦制の統一実現の雰囲気が一層高まり得るという新しい理論を彼ら/彼女らは開発している。)민 【『동아일보, 칼럼 (91)』, 동아일보사, 1991】

(13) 캐나다 토론토대에선 여기서 한발 더 나아가 소도세포를 고분자 물질로 싸서 이식하는 방법이 개발되고 있다. (カナダのトロント大学ではここから一歩進んで、臍島細胞を高分子の物質で包み、移植する方法が開発されつつある。)민 【『조선일보 생활 (93)』, 조선일보사, 1993】

(14) 1주일 일정으로 네덜란드 전국을 일주하는 자전거 여행 코스까지 개발되어 있다. (一週間の日程でオランダ全国を一周する自転車旅行のコースまで開発されている。)민 【『조선일보 과학 (93)』, 조선일보사, 1993】

先に浜之上幸(1991:67-69)を概観した折、‘개발되다(開発される)’は客体変化動詞であることを提示した。一方、‘개발하다(開発する)’は主体である彼ら/彼女らは何の変化もなく、主体非変化動詞であるが、客体である新しい理論は何らかの変化があり、客体変化動詞である。

本稿では、‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’のアスペクト的特性を考察したが、その考察は菅野裕臣他編(1991²)の記述と浜之上幸(1991)の記述に基づくものである。本稿の考察を通じて、‘漢字語+하다’の‘하다’を‘되다’に変えて、他動詞から受身形に派生する363個の大部分が能動文において主体変化

動詞, 客体変化動詞であるものが受動文において客体変化動詞になるというアスペクト的特性を示すことが判明している²⁸⁾。

ただし, 本稿の考察を通じて, (1) ‘漢字語+되다’ が可能や自発²⁹⁾を表す場合, (2) ‘漢字語+되다’ が相互³⁰⁾的な意味を表す場合, (3) 収集した例文では ‘漢字語+하다’ しか出現しない場合があったことがわかっている。それらを提示すると, 以下のようになる。

(35) 1913 년 보르도에서 출생한 클레망 감독은 영화속에서 허구와 기록성을 예술적으로 접목시키는데 성공, 프랑스 영화계에 큰 발자취를 남긴 인물중한 명으로 기억된다. (1913 年, ボルドーで生まれたクレマン監督は映画の中で虚構と記録性を芸術的につなげることに成功, フランス映画界に大きな足跡を残した人物の中の一人として記憶される。)민 【『중앙일보 96-03 매체』, 중앙일보사, 1996】

(36) 그러고 보니 텔레비전을 오래 보면 천치가 된다는 어느 의학자의 실험담이 상기된다. (そうしてみると, テレビを長いこと視聴すると, ほけるというある医学者の実験談が思い出される。)민 【이여령, 『차 한 잔의 사상』, 문학사상사, 2003】

(35)의 ‘기억되다 (記憶される)’ と (36)의 ‘상기되다 (想起される)’ は受動というよりは自発を表す。以下の例も ‘漢字語+되다’ が自発あるいは可能を表すものである (ここでは, 漢字語だけを提示することにする)。

상상 (想像), 생각 (考え), 우려 (憂慮), 회상 (回想), 학습 (学習), 해결 (解決), 확인 (確認), 후회 (後悔)

(37) 나아가 양질의 돌들, 흑색 안료, 소금, 흑연, 납, 구리, 주석 그리고 나중에는 철과 장신구, 조개 껍질, 호박, 귀금속 등이 교환되었다. (更に,

良質の石, 黒色顔料, 塩, 黒鉛, 鉛, 銅, 錫そして後には鉄と装身具, 貝の殻, かぼちゃ, 貴金属などが交換された。)민【김홍규, 윤구병, 『함께 걷는 이 길은: 한샘 미네르바문고 3』, 한샘출판사, 1993】

- (38) 이런 점에서 게임적인 선택은 개인의 선호에 따른 선택과는 구별된다. (このような点でゲーム的な選択は個人の好みによる選択とは区別される。)민【김태환, 『푸른 장미를 찾아서』, 문학과지성사, 2001】

(37)의 ‘교환되다(交換される)’も(38)의 ‘구별되다(区別される)’も動作の主体が明示されていないが, 文脈から個々人あるいは複数の人であることは間違いない。しかしながら, 動作の客体は他のものと相互的に並べられている。それ故, 本稿では, これらを相互的な意味を表すものとするのである。

他の例は以下のものがある(ここでは, 漢字語だけを提示することにする)。

구분(区分), 대조(対照), 비교(比較), 연결(連結), 접촉(接触)

- (39) 영재는 웃으며 사절한다. (ヨンジェは笑いながら, 断る。)민【이어령, 『신화 속의 한국정신』, 문학사상사, 2003】

- (40) 달렘 박물관은 전시 일정 사흘 전에 비행기로 그 인형들을 수송했다. (ダーレム博物館は展示日程の3日前, 飛行機でその複数の人形を輸送した。)민【김영희, 『아이를 잘 만드는 여자』, 디자인 하우스, 1992】

(39) ‘사절하다(断る)’と(40) ‘수송하다(輸送する)’は菅野裕臣他編(19912)では, それぞれ ‘사절되다(断られる)’, ‘수송되다(輸送される)’もあるとしているが, 収集した例文の中には ‘사절되다(断られる)’, ‘수송되다(輸送される)’を含む例文が存在しないものである。

他の例は以下のものである(ここでは, 漢字語だけを提示することにする)。

계몽 (啓蒙), 고대 (苦待), 분부 (分付), 선거 (選挙), 세탁 (洗濯), 소지 (所持), 수락 (受諾), 수리 (修理), 수속 (手続), 시험 (試験), 신용 (信用), 암기 (暗記), 연습 (練習), 열람 (閱覽), 염원 (念願), 예습 (予習), 요리 (料理), 운전 (運転), 유의 (留意), 윤색 (潤色), 의논 (議論), 의미 (意味), 주최 (主催), 중개 (仲介), 체념 (諦念), 추억 (追憶), 취재 (取材), 타자 (打字), 타진 (打診), 탄식 (嘆息), 토로 (吐露), 통솔 (統率), 통역 (通訳), 투표 (投票), 풍자 (風刺), 합계 (合計), 합창 (合唱), 협상 (協商), 협의 (協議), 호소 (呼訴), 확신 (確信), 훼방 (誹謗), 휴대 (携帯), 흥정 (駆け引き)

その他にも‘漢字語+되다’が菅野裕臣他編(1991²)において受身形とされているが、実際の用例では自動詞であったり、例文に全く現れないものがあったりもした。

- (41) (…中略) 결말은 의외로 싱겁게 마무리된다. (結末は意外にも味気なく終わる。)민 【『동아일보 2002 년 기사: 문화』, 동아일보사, 2002】

‘漢字語+되다’が自動を表すその他のものは以下である。

구성 (構成), 매개 (媒介), 반복 (反復), 발휘 (發揮), 부담 (負擔), 상실 (喪失), 성사 (成事), 신장 (伸張), 연속 (連続), 유지 (維持), 참고 (参考), 흡수 (吸収)

以下は例文収集ができなかったものである。

거듭 (繰り返し), 징병 (徵兵), 추량 (推量), 해답 (解答)

最後に, ‘오염 (汚染)’は‘하다’を伴わず、代わりに‘시키다’を伴い、他動詞を表す。一方、その受身形として‘오염되다 (汚染される)’が使われる。

- (42) 비닐쓰레기가 농토를 오염시키고 있다. (ビニールごみが農地を汚染している。)민 【『조선일보 과학 (93)』, 조선일보사, 1993】
- (43) 그로 인해 탐즈강이 오염됩니다. (それによってテムズ川が汚染されます。)민 【『조선일보 과학 (93)』, 조선일보사, 1993】

その他には以下のものがある(ただし, ‘환기되다(喚起される)’, ‘환기시키다(喚起する)’を含む例文だけでなく, ‘환기하다(喚起する)’を含む例文もあるので, 今後, 作例を含めて, 再考察する必要がある)。

환기(喚起)

4. 2. ‘漢字語+하다’ が自動を表し, ‘漢字語+되다’ が自動を表すもの

本稿では, ‘漢字語+하다’ が自動を表し, ‘漢字語+되다’ が自動を表すものを, 実際の例文において (1)疑似接尾辞 ‘하다’, ‘되다’ どちらも伴い, 出現するもの, (2)疑似接尾辞 ‘하다’ しか伴わず, 出現するもの, (3)疑似接尾辞 ‘되다’ しか伴わず, 出現するもの, (4)相互の意味を表すもの, (5)全く出現しないものに分けて, 考察することにする。

まず, 実際の例文において, 疑似接尾辞 ‘하다’, ‘되다’ どちらも伴い, 出現するものであるが, この数は多い。以下に例文を提示する(例文(18)-(21)は再録である)。

- (44) 대기업에 대한 세무조사가 본격 시작됨에 따라 각 기업들이 바짝 긴장하고 있다. (大企業に対する税務調査が本格的に始まるに従い, 各企業がぐつと緊張している。)민 【『조선일보 2001 년 기사: 경제』, 조선일보사, 2001】
- (45) 일부 재산많은 공직자들이 물의를 빚을 것에 대비, 선수를 쳐 사표를 내는 예가 있는가 하면 서둘러 재산을 처분하기 위해 복덕방에 부동산을 헐값에 내놓는 등 공직사회가 극도로 긴장되고 있다. (一部の財産が多い複数の公

職者が物議を醸すことに備えて, 先手を打ち, 辞表を出す例があるかと思えば, 急いで財産を処分するために不動産に不動産物件などを安値で差し出すなど, 公職者の界限が急激に緊張している。)민 【『뉴스피플 (1993/07 - 1993/08)』, 경향신문사, 1993】

- (18) 유기 합성 화학은 빌러가 1828 년 실험실에서 요소를 합성한 이후 1 백 60 여년 동안 눈부시게 발달했다. (有機合成化学はヴェーラーが 1828 年, 実験室で要素を合成した後, 160 年余りの間, 輝かしく発達した。)민 【『조선일보 과학 (93)』, 조선일보사, 1993】

- (19) 실용적인 지식이 축적되고 발전되어야 생활이 향상되고 문명이 발달된다. (実用的な知識が蓄積され, 発展して初めて, 生活が向上し, 文明が発達する。)민 【조동일, 『우리 학문의 길』, 지식산업사, 1993】

- (20) 주말여행이 증가하면 관광산업도 발전한다. (週末旅行が増加しながら, 観光産業も発展する。)민 【『동아일보 2002 년 기사: 오피니언』, 동아일보사, 2002】

- (21) 이양호 전 국방장관의 군사장비 구입과 관련한 메모제공 사건은 그가 경전투 헬기, 비행장 경비용 장갑차 구매에도 개입했을지 모른다는 의혹으로까지 발전되고 있다. (イ・ヤンフォ前国防長官の軍事装備購入と関連したメモ提供事件は彼が戦闘ヘリ, 飛行場警備用装甲車の購買にも介入したかもしれないという疑惑にまで発展している。)민 【『경향신문 96-10 사설』, 경향신문사, 1996】

例文 (44), (45)의 동작의主体はいずれも団体名詞で, 存在論的卓立性が高いものである。

本稿で考察した動詞群のうち, ‘긴장하다 (緊張する)’ と ‘긴장되다 (緊張する)’ が, 生越直樹 (2001a)가提示した条件, つまり ‘漢字語 + 하다’ が主体の力・活動によって事態が引き起こされ, ‘漢字語 + 되다’ が主体に対して他からの働きかけや影響がある場合に使われるというものに一致する唯一の例である

ように思われる。というのも、先にも提示したが、(18)-(19)の ‘발달하다(発達する)’ と ‘발달되다(発達する)’ や (20)-(21)の ‘발전하다(発展する)’ と ‘발전되다(発展する)’ のように、これらの動詞が(前後の文脈が不足しているものの)生越直樹(2001a)の条件に一致するとは考えられないからである。

もちろん、動作の主体が何かによって、あるいは ‘漢字語+하다’ や ‘漢字語+되다’ が文末で終わるのか、連体形で終わるかなどによって、その意味が変わり得る可能性もある。本稿では、それらを様々な観点から考察することで、‘漢字語+하다’ と ‘漢字語+되다’ の意味を総合的に判断する必要があると考える。

他の例は以下のものである(ここでは、漢字語だけを提示することにする)。

감동(感動), 감소(減少), 개입(介入), 개통(開通), 개화(開化), 격화(激化), 고립(孤立), 단결(団結), 도달(到達), 도착(到着), 독립(独立), 발생(發生), 변동(變動), 변화(變化), 부패(腐敗), 부활(復活), 분열(分裂), 분포(分布), 상승(上昇), 성립(成立), 성숙(成熟), 성행(盛行), 소속(所屬), 실례(失礼), 안심(安心), 안정(安定), 유래(由来), 유전(遺伝), 유착(癒着), 유통(流通), 유행(流行), 임신(妊娠), 전염(伝染), 정착(定着), 진보(進歩), 취직(就職), 침투(浸透), 탈락(脱落), 파급(波及), 파생(派生), 팽창(膨張), 폭락(暴落), 합격(合格), 해당(該当), 황폐(荒廢), 흥분(興奮)

次に、実際の用例で疑似接尾辞 ‘하다’ だけを伴い、出現するものである。

(46) 다만 미를 동경(憧憬)하고 감상(鑑賞)하며 이에 도취하고 감격한다. (ただ美に憧れ、鑑賞し、これに陶醉し、感激する。)민 【염상섭, 『만세전』, 창작과비평사, 1987】

(47) 캘리포니아주의 대부분 공립학교 학생들은 매일 1 시간씩 운동한다. (カリフォルニア州の大部分の公立学校の学生は毎日1時間ずつ運動する。)민 【『조선일보 2003 년 기사: 스포츠』, 조선일보사, 2003】

他の例は以下のものである（ここでは，漢字語だけを提示することにする）。

경과 (経過), 고민 (苦悶), 고생 (苦勞), 근심 (心配), 시종 (終始), 이바지 (貢獻), 정통 (精通), 회전 (回轉)

以下は実際の用例で疑似接尾辞 ‘되다’ だけを伴って，出現するものである。

- (48) “나는 중독됐어.” (“私は中毒になった.”)민 【김영하, 『아랑은 왜』, 문학
과지성사, 2001】

他の例は以下のものである（ここでは，漢字語だけを提示することにする）。

정체 (停滯), 종속 (從屬)

本稿では，以上の漢字語が疑似接尾辞 ‘하다’ のみ伴い，出現するのか，あるいは疑似接尾辞 ‘되다’ のみ伴い，出現するのか，実際の用例の考察のみならず，作例の考察も踏まえながら，再考察する必要があると考える。

また，以下のものは相互を表すものである（例文 (22)-(23)は再録である）。

- (22) 비극에서는 의미와 일상적 생존이 서로 대립한다. (悲劇では意味と日常の生存が互いに対立する。)민 【김윤식, 『운명과 형식』, 솔, 1992】

- (23) 벌레가 타고난 재능으로서, 이 두 가지 점이 항상 정반대로 대립된다.
(虫が生まれつきの才能としては, この2つの点が常に正反対に対立する。)민 【J.H. 파브르, 『곤충기』, 마당미디어, 1994】

- (49) 사회가 존립하는 첫째 이유가 국민 생명과 재산의 안전을 확보하는 데 있는 것이라면, 이번같은 사태는 바로 그 근본에까지 관계된다. (社会が存立する最初の理由が国民の生命と財産の安全を確保するところにあるのであ

れば, 今般のような事態はまさにその根本にまで関係する。)민【한국일보 편집부, 『한국일보 사설』, 한국일보사, 1982】

- (50) ‘썩은 살’ 론은 물론 사정을 지칭하는 것이지만 두 용어의 혼용은 그것이 의도적이든 아니든 단순한 표현 문제 이상의 본질 문제와도 관련된다. (‘腐った肉’論はもちろん事情を指し示すものだが, 2つの用語の混用はそれが意図的であろうがなかろうが, 単純な表現の問題以上の本質の問題にも関連する。)민【『동아일보 칼럼 (93)』, 동아일보사, 1993】

‘대립하다 (対立する)’と‘대립되다 (対立する)’のように, ‘漢字語+하다’と‘漢字語+되다’どちらも相互を表すものもあれば, ‘관계되다 (関係する)’や(50)の‘관련되다 (関連する)’のように, ‘漢字語+되다’のみが相互を表すものもある。

他の例は以下のものである(ここでは, 漢字語だけを提示することにする)。

결합 (結合), 대응 (対応), 동화 (同化), 병렬 (並列), 연계 (連繫), 일치 (一致), 조화 (調和), 충돌 (衝突)

最後に, 実際の用例で出現しなかったのは‘정전하다 (停戦する)’, ‘정전되다 (停戦する)’であったことを示しておこう。

4. 3. ‘漢字語+하다’が他動を表し, ‘漢字語+되다’が自動を表すもの

以下に例文を提示する。

- (51) 그때 내 시선이 저쪽 벽에 걸린 자그마한 액자 위에 고정되었다. (その時, 私の視線があちらの壁にかかった小ぶりの額縁の上にとまった。)민【이인성, 『마지막 연애의 상상』, 솔, 1992】

- (52) 클린턴 행정부 등장으로 인한 한미 안보 협력 관계에 어떤 변화가 온다면 그것은 주한 미군의 추가 감축과 방위비 분담금 증액 요구 그리고 미 북한 관계 개선으로 나타날 것으로 관측된다. (クリントン政府の登場による韓米の安保協力関係にどんな変化がきたと仮定しても, それは駐韓アメリカ軍の追加減縮と防衛費の増益要求そしてアメリカと北朝鮮の関係改善に現れると観測される。)민 【『동아일보 종합 (92)』, 동아일보사, 1992】
- (53) 그들이 진단·평가한 내용들은 거의 모두가 사실에 부합된다. (彼ら/彼女らが診断・評価した内容はほぼ全てが事実に符合する。)민 【『한국일보 96-11 사설』, 한국일보사, 1996】

例文 (51)は‘漢字語+되다’が自動を表し, 例文 (52)は‘漢字語+되다’が受動を表し, 例文 (53)は‘漢字語+되다’が相互を表している。このように, 菅野裕臣他編 (1991²)では, ‘漢字語+되다’を受身形と記述しているものが自動や相互を表したりしている。

他の例は以下のものである(ここでは, 漢字語だけを提示することにする)。

걱정 (心配), 교체 (交替), 기대 (期待), 납득 (納得), 반대 (反対), 방송 (放送), 보급 (普及), 분리 (分離), 소화 (消化), 시작 (開始), 연락 (連絡), 연장 (延長), 염녀 (念慮), 완료 (完了), 위반 (違反), 이룩 (成立), 이야기 (話), 작정 (決心), 절약 (節約), 정리 (整理), 주저 (躊躇), 준비 (準備), 착각 (錯覺), 통과 (通過), 회복 (回復)

4. 4. ‘漢字語+하다’가自動を表し, ‘漢字語+되다’가受動を表すもの

以下に例文を提示する。

- (54) 후기유교, 신유교 또는 근대유교 (Neo-Confucianism)는 일본, 한국, 대만, 홍콩, 싱가포르의 산업주의를 지탱하는 정신적인 힘으로서 종종 언급된다.

(後期の儒教, 新しい儒教または近代の儒教 (Neo-Confucianism) は日本, 韓国, 台湾, 香港, シンガポールの産業主義を支える精神的な力として時折, 言及される。)민【이재규, 『빅뱅경영』, 21 세기북스, 1998】

- (55) 외부로부터 어떤 자극을 받으면 내분비계통이 반응을 일으켜 부신피질 호르몬의 분비가 증가된다. (外部からある刺激を受ければ, 内分泌系統が反応を起こし, 副腎皮質のホルモンの分泌が増加する。)민【이상중, 『중년기 건강클리닉』, 도서출판 장락, 1994】
- (56) 부모를 따라온 꼬마들은 한쪽 구석의 전자오락기계 앞에서 빠른 손동작으로 게임에 열중한다. (両親についてきたちびっ子たちは一方の隅のゲーム機器の前で素早い手の動きでゲームに熱中する。)민【『조선일보, 사회(92)』, 조선일보사, 1992】

例文 (54) は‘漢字語 + 되다’が受動を表し, 例文 (55) は‘漢字語 + 되다’が自動を表し, 例文 (56) は実際の用例で‘열중하다(熱中する)’しか出現しなかったことを示す例である。

他の例は以下のものである(ここでは, 漢字語だけを提示することにする)。

이동 (移動), 입회 (立会), 작용 (作用), 착목 (着目), 합의 (合意), 합작 (合作)

4. 5. ‘漢字語 + 하다’가他動を表し, ‘漢字語 + 되다’가自動, 受動を表すもの 以下に例文を提示する。

- (57) 이런 교육은 이 회사의 전국 34 개영업소에서 매주 토요일 오후 2 시부터 3 시간 동안 진행된다. (このような教育はこの会社の全国 34 カ所の営業所で毎週土曜日の午後2時から3時間進められる。)민【『조선일보 생활(93)』, 조선일보사, 1993】

(57)は‘진행되다(進行する)’が受動として使用されている例である。

その他の例としては、以下のものがある(ここでは、漢字語のみを提示する)。

확대(拡大)

4. 6. ‘漢字語+하다’が自動, 他動を表し, ‘漢字語+되다’が受動を表すもの

以下に例文を提示する。

(58) 서울 대교구가 북한 동포와의 국수 나누기 운동을 전개한다. (ソウル大教区が北朝鮮の同胞とのうどん分ち運動を展開する。)민 【『평화신문』, 평화방송 평화신문, 1996】

(59) 히딩크식 경영을 도입하자는 제안부터 시청 앞을 문화공간으로 만들자는 주장까지 다양한 논의가 전개되고 있다. (히딩크式の経営を導入しようという提案から市役所の前を文化空間として作ろうという主張まで多様な議論が展開されている。)민 【『조선일보 2002년 기사: 오피니언』, 조선일보사, 2002】

(58)は‘전개하다’が他動を表すことを示す例である。ここで指摘したいことは収集した用例の中には‘전개하다’を自動の意味で使われているものを1つも探すことができなかったということである。

他の例としては、以下のものがある(ここでは、漢字語だけを提示する)。

지탱(支え), 찬성(賛成)

4. 7. ‘漢字語+하다’が自動, 他動を表し, ‘漢字語+되다’が自動を表すもの

本稿の調査の結果, 菅野裕臣他編(1991²)の記述通り‘집중하다(集中する)’は自動と他動の意味を表し, ‘집중되다(集中する)’は自動の意味を表すとい

うことである。以下にその例を示す。

- (60) 온 감각과 에너지가 뿌리로 집중해요. (全ての感覚とエネルギーが根に集まります。)민【이승우, 『식물들의 사생활』, 문학동네, 2000】
- (61) 수려한 자연을 호홉하고자 찾는 탐방객보다 탐방객이 뿌리는 돈을 먼저 생각하는 기존 상공인들은 자연을 보존하기보다 몰려드는 탐방객을 수용하려는 데 관심을 집중한다. (豊かで美しい自然を満喫しようとする訪れる客よりも客が落とすお金をまず考える既存の商売人たちは自然を保持することよりも押し寄せる客を受容しようとすることに関心を集中させる。)민【박병상, 『참여로 여는 생태공동체: 어느 근본주의자의 환경 다투리』, 아르케, 2003】
- (62) 그런데 이제는 자녀 양육이나 노인 부양의 의무가 한 사람에게 집중된다. (ところで今では子供の養育や老人の扶養の義務が一人の人に集まる。)민【김동선, 『야마토마치에서 만난 노인들』, 궁리출판, 2004】

4. 8. ‘漢字語+하다’가自動, 他動を表し, ‘漢字語+되다’가自動, 受動を表すもの

本稿の調査の結果, 菅野裕臣他編(1991²⁾の記述通り ‘정지하다(停止する)’は自動と他動の意味を表し, ‘정지되다(停止する, 停止される)’は自動と受動の意味を表すということである。

- (63) 블랙홀의 지평면에서 시간은 정지한다. (ブラックホールの地平面で時間が止まる。)민【권재술·성하창, 『이 하늘 이 바람 이 땅: 한샘 미네르바 문고 5』, 한샘출판사, 1993】
- (64) J호의 기관장은 며칠 전부터 주기관 연료 펌프에서 연료유가 새는 것을 이때를 이용해 잠시 손을 보려고 기관을 정지했다. (J호의機関長は何日前から主機の燃料ランプから燃料油が漏れるのをこの時を利用して, 手入れしようと機械を停止した。)민【김상순 외, 『떠도는 배들』, 한국경제신문사,

1995】

- (65) 운전면허증 갱신 기간이 경과돼 면허가 정지됐다. (運転免許証の更新期間が過ぎて、免許が停止した。) 민 【『중앙일보 2002 년 기사: 종합』, 중앙일보사, 2002】
- (66) (…中略) 변선환 · 홍정수 두 교수를 재판위원회에 기소함에 따라 감리교회법상 앞으로 6 개월 안에 열리게 돼 있는 재판 때까지 두 사람의 목사자격이 정지됐다. (ピョンソンファン ·ホンジョンス 2 人の教授を裁判委員会に起訴することによって、メソジスト法相の前で 6 カ月以内に開かれることになっている裁判まで 2 人の牧師資格が停止された。) 민 【『한겨레신문 문화 (92)』, 한겨레신문사, 1992】

4. 9. 疑似接尾辞 ‘하다’, ‘되다’ だけでなく, ‘받다’, ‘당하다’ を伴うもの
これらの動詞については, 本稿では, 詳しく考察することができなかった。
今後の課題としたい。

5. 今 後 の 課 題

今後の課題として, 以下のものを提示する。

- ①漢字語自体のより詳細な考察が必要である。
- ②疑似接尾辞の派生における動作主の明示がヴォイス接尾辞の派生におけるそれと比較すると, かなり多いように思われた。このより詳細な考察と記述が必要である。
- ③例えば, ‘소개하다 (紹介する)’ と ‘소개시키다 (紹介する)’ のように, ‘漢字語 + 시키다’ が ‘漢字語 + 하다’ と同じく他動の意味で使われるものが多々あった。このより詳細な考察と記述が必要である。
- ④菅野裕臣他編 (1991²) に掲載している ‘漢字語 + 하다’, ‘漢字語 + 되다’ 以

外のそれらを形態論的, 統辞論的, 意味論的に考察する必要がある。

- ⑤以上の課題を解決するために, より多くの先行研究を概観する必要もあるし, 他の疑似接尾辞 ‘받다, 당하다’ に関しても用例を収集し, 疑似接尾辞 ‘되다’ の意味と機能がどう類似していて, どう相違するかを考察する必要がある。

註

- 1) ここでは, 一般言語学のヴォイスを説明することにしよう。

Asher (1994:4983) によれば, 術語としてのヴォイスはラテン語の名詞 ‘vox (音, 語)’ に由来されるとされる。つまり, その由来は文法とは全く関係ないものであった。また, そこでは, 音を発することを取り扱う音声的な術語との簡単に予想できる混乱があるために, ギリシア語の術語 ‘diathesis (状態, 機能)’ を ‘voice’ よりも好む言語学者もいるとしている。

従来のヴォイス研究では, 能動形, 受動形, 中動形という形態論的な対立の中で文法範疇としてのヴォイスを捉えようとしていた。しかしながら, 形態論的対立だけでは, 諸語のヴォイスを網羅的に記述できないという理由からペテルブルク学派は形態論的観点, 統辞論的観点, 意味論的観点をも含めた, 機能=意味論的範疇としての diathesis を提示している。

機能=意味論的範疇としての diathesis については, 以下の註 12 で簡略的に言及しているので, それを参照されたい。

- 2) 漢字語とは, 菅野裕臣 (2007²:58) では, 漢字で書くことができる単語で, 日本の漢語に相当するとしている。一方, そこでは, 外来語を, 現代朝鮮語の語彙の中で, 固有語と漢字語を取り除いたものであるとしている。

- 3) 菅野裕臣他編 (1991²:1032-33) における自動詞, 他動詞, 受身形, 使役形の定義は次のように示されている。

自動詞…動詞のうち対象を表す格語尾 ‘-를/-을’ を取り得ないもの

他動詞…動詞のうち対象を表す格語尾 ‘-를/-을’ を取り得るもの

受身形…自動詞のうち動作の主体が ‘-에게’, ‘-에게서’, ‘-로부터/-으로부터’, ‘-에 의하여’ 等で表し得るもの, 可能の意味を表し得るもの

使役形…他動詞のうち動作の主体が ‘-에’, ‘-에게’, ‘-로/-으로 하여금’ 等で表し得るもの

本稿でも, この菅野裕臣他編 (1991²:1032-33) の定義に従うことにする。

また, 本稿では, 現代朝鮮語のヴォイスを考察する上で, 形態論的レベルとしての自動詞, 他動詞, 受身形, 使役形, 統辞論的なレベルとしての自動詞文, 他動詞文, 受動文, 使役文, 意味論的レベルとしての自動, 他動, 受動, 使役を厳密に区別することにする。

4) 基本語幹等の現代朝鮮語に関する文法的な術語は、菅野裕臣他編(1991²)並びに菅野裕臣(2007²)に従うことにする。

5) 菅野裕臣他編(1991²:1018)では、分析的な形(analytic form)を補助的な単語を含む2単語以上からなる文法的な形と説明し、それに対立する術語として1単語内の色々な文法的な形(すなわち語幹+接尾辞+語尾)を意味する総合的な形(synthetic form)を提示する。

6) 菅野裕臣他編(1991²:1009-1016)では、用言の語幹そのままの形を第Ⅰ語基、子音語幹で‘-으’が接尾する形を第Ⅱ語基、‘-아/-어’が接尾する形を第Ⅲ語基と呼んでいる。

7) 菅野裕臣他編(1991²:1033)では、ある種の用言は2つの構成要素の間に格助詞や副助詞が挿入されて、あたかも2単語のように見えるものがあり、これを分離用言としている。また、そこでは、その例として、‘공격되다(攻撃される): 次のように出現し得る【공격되다, 공격이 되다, 공격도 되다, 공격만 되다…】’, ‘존경하다(尊敬する): 次のように出現し得る【존경하다, 존경을 하다, 존경은 하다, 존경도 하다, 존경만 하다…】’などを取り上げている。

8) 本稿では、例文を以下のように示す。

(1) 論文等から引用する場合は、提示する前に言及し、例文末に何の表示もしない。

(2) 作例した用例を示す場合は、例文に作例であることを表示する。

(3) 小説や辞典から用例を引用する場合は、例文末に略字とページを、新聞から用例を引用する場合は、例文末に新聞の略字とその記事の日付そしてその記事が掲載されている面を表示する(インターネット新聞の場合も同じように表示する)。

(4) インターネット上の記事などは例文の末尾にそのアドレスを表示する。

また、以下、例文を提示する時、動作の主体は_____で、動作の客体_____で、使役者は_____で、そして被使役者は_____で示すことにする(動作の主体や客体などの意味論的役割については、註10を参考にされたい)。

9) 本稿では、無標形を動詞のヴォイスを変える形態素を伴っていない形として、有標形を動詞のヴォイスを変える形態素を伴っている形として規定し、議論を進めることにする。

10) 動作の主体や動作の客体という意味論的役割は、国立国語研究所(1997:8-59)でも指摘しているように、主観的なものであり、研究者の数だけその数が減ったり、増えたりするものである。この混乱を避けるために、本稿で使用する意味論的役割を以下のように規定しておく。

動作主(動作の主体)…能動, 受動, 非使役において、動作を遂行するもの

受動者(動作の客体)…能動, 受動, 非使役, 使役において、動作を被るもの

使役者…使役において、被使役者を納得させたり、無理強いしたりしながら、動作を遂行させる扇動者

被使役者…使役において、実際に動作を遂行するもの

11) 崔昌玉(2010b:104)では、ヴォイス接尾辞を伴うことができる動詞を173個としているが、本稿では、そこに‘에다(えぐる)’【他動詞】-‘에이다(えぐられる)’【受身形】を加え、

174 個とする。

12) 機能＝意味論的観点からの考察とは、機能と意味どちらの観点も踏まえた考察ということである。言語類型論及び諸語の記述を主導するペテルブルク学派はこのような観点を積極的に採用している(ペテルブルク学派の詳細については、Nedjalkov & Litvinov(1995)を参照)。彼ら/彼女らの考えによれば、(議論をヴォイスに限定して言うのであれば)無標形対有標形という形態論的観点から記述する文法範疇だけでは、諸語のヴォイスを記述することができないということである。このような考え方から、ヴォイスも形態論的、統辞論的、意味論的観点を含めた機能＝意味論的範疇としての diathesis を提示する。この diathesis については、本稿では、詳しく取り扱うことはしない。詳しくは崔昌玉(2013b:434-437)を参照されたい。

ところで、浜之上幸(1991:8-9)では、文法範疇としてのアスペクト、語彙範疇としてのアクティオンサールト、機能＝意味論的範疇としてのアスペクチュアリティーを厳密に区別しようとする。本稿でも、ヴォイスでも文法範疇としてのヴォイス、語彙範疇としてのヴォイス、機能＝意味論的範疇としてのヴォイス(diathesis)を厳密に区別し、議論を進めたいと考える。

13) Klaiman(1991:169)では、以下の尺度によって存在論的卓立性が高いか低いかが決定されるとしている。

一人称	二人称	三人称	固有	人間一	有生一	無生一
代名詞	代名詞	代名詞	名詞	般名詞	般名詞	般名詞

← 存在論的卓立性の尺度

つまり、上の図によれば、一人称代名詞が存在論的に最も高い卓立性を持ち、無生一般名詞が存在論的に最も低い卓立性を持つということになる。

また、Klaiman(1991:119)では、この図はDixon(1979:85)において最初に示されたものであるとしている。しかしながらCroft(1990)では、この図はDixon(1979:85)において見出されたものであるが、Silverstein(1976)において最初に記述されたものであるとしている。

14) Klaiman(1991)では、*という記号をその文が文法的であると認められないことを示すものとして使用している。本稿もこれに従うことにする。

15) 現代朝鮮語には、アスペクトを表す形式が2つある。1つは‘Ⅰ - 고 있다’であり、もう1つは‘Ⅲ 있다’である。現代朝鮮語のアスペクトについては、2.2において詳しく言及することにする。

16) 受身形がⅡ - ㄴ다 / Ⅰ - 는다を伴っていないが、終止形語尾をⅡ - ㄴ다 / Ⅰ - 는다に修正したり、語順をかえたりして、例文として使用したものである。また、主体や客体が明示されていない場合、これらを前後の文脈から探し出すことができ、動作の主体を明示しても文法的におかしくない場合は、その例文に主体や客体を補って、提示している。

17) 浜之上幸 (1992:49)では, Nedjalkov & Jaxontov (1988:6)を引用し, 状態相を物事のある状態をその起源をまったく含意することなしに表し, 自然な状態を表すことが多いとしている。また, 浜之上幸 (1992:98)は, Nedjalkov & Jaxontov (1988:4)を引用し, 自然な状態とは, ひとりでに生じたもので, 動作主 (agent) の意志や努力と無関係のものであるとしている。本稿もこの見解に従うことにする。

18) 남수경 (2011:90-94)では, このような文を中動 (middle)として規定している。中動は古典ギリシア語やラテン語において文法範疇としてのヴォイスとして取り扱われている。なぜならば, それらの言語において動詞の形態論的対立として能動形, 受身形, 中動形が存在するからである。この中動は, Kemmer (1993:16-20)によれば, 再帰, 相互だけでなく, 可能などの意味も表すとされている。남수경 (2011)では, 再帰, 相互, 可能などの意味を含む広義の術語として中動を便宜的に採用したと思われる。本稿では, 現代朝鮮語のヴォイスがどのような意味を表すかについては未解決の部分が多々あるので, このような意味論的な規定にとどめておくことにする。

19) 浜之上幸 (1991:23)では, 現代朝鮮語のアスペクトに関する先行研究と菅野裕臣他編 (1991²⁾)の情報に基づき, 以下の表を提示する (本稿では, 浜之上幸 (1991:23)の表を少し変えて, 以下の表を提示している)。

表. 浜之上幸 (1991:23)の表

	I - 고 있다	III 있다	動詞の例
他 動 詞	+	－	알다 (分かる) 먹다 (食べる) 잡다 (握る)
	－	－	닮다 (似る) 맞다 (合う)
自 動 詞	+	+	열중하다 (熱中する) 오다 (来る)
	+	－	늙다 (老いる) 걷다 (歩く)
	－	+	늪다 (老いる) 돌다 (気が触れる)
	－	－	결혼하다 (結婚する) 생기다 (見える)

(+はこの形式を持つことを示し, -はこの形式を持たないことを示す)

この表から他動詞の中には, ‘I - 고 있다’を伴わない動詞もあるのに対して, 自動詞の中には ‘I - 고 있다’を伴わない動詞, ‘III 있다’を伴わない動詞, どちらの形式も伴わない動詞があることがわかる。

20) 浜之上幸 (1991:84)では, 事象を Comrie (1976), Lyons (1977)で ‘situation’としているものに相当し, 言語外的なものと規定している。一方, 浜之上幸 (1991:84)では, Comrie (1976:48)の局面の説明を引用しながら, 局面を主観と客観の相互規定のもとで存在するこ

とを認めつつも、それを一義的に客観的な規定として考えるところから議論を出発している。
21) 浜之上幸 (1991) では、その動詞が ‘I - 고 있다’ を伴い、動作の生起～終了の局面, ‘III 있다’ を伴い、動作の終了後の局面を表すものを主体変化動詞としている。また、そこでは、動詞が ‘I - 고 있다’ を伴っても, ‘III 있다’ を伴っても、それらが表す局面が同じであるものを状態性動作動詞とし、動詞が ‘I - 고 있다’ しか伴わないものを主体非変化動詞であるとしている。

また、本稿の考察では、‘개발되다 (開発される)’ も ‘통치되다 (統治される)’ も受身形なので、厳密な意味ではそれぞれ主体変化動詞、主体非変化動詞ではなく、客体変化動詞、客体非変化動詞ということになる。

22) 現在では、韓国本土でも疑似接尾辞のみ取り扱った研究が数多くあるし、日韓対照研究という観点から日本でも様々な研究があるが、本稿では、それを全て網羅的に概観することができなかった。これらの詳細な概観は今後の課題である。

23) 生越直樹 (2001a) では、名詞に ‘하다’ が付いた形を하다形、名詞に ‘되다’ が付いた形を되다形としているが、本稿では、それぞれを ‘漢字語+하다’, ‘漢字語+되다’ とし、生越直樹 (2001a) を概観することにする。ただし、本稿では、‘쇼핑하다 (買い物する)’ のように ‘外来語+하다’ を考察対象からはずしているので、厳密な意味では生越直樹 (2001a) とはその考察対象が異なる。これについては4の冒頭部分で詳しく言及することにする。

24) 本稿では、以下のものを考察対象から除外している。というのも、菅野裕臣他編 (1991²) において、‘名詞+하다’ の記述しかなかったり、‘名詞+되다’ の記述しかなかったりしているからである。ここでは、紙幅の都合から、301 個あるその動詞のうちの一部を示すことにする。

(1) ‘각오하다 (覚悟する)’ 【他動詞】 (2) ‘간파하다 (見逃す)’ 【他動詞】 (3) ‘간호하다 (看護する)’ 【他動詞】 (4) ‘감당하다 (十分堪え得る)’ 【他動詞】 (5) ‘감독하다 (監督する)’ 【他動詞】 (6) ‘감상하다 (鑑賞する)’ 【他動詞】 (7) ‘감탄하다 (感嘆する)’ 【自動詞】 (8) ‘강연하다 (講演する)’ 【他動詞】 (9) ‘강의하다 (講義する)’ 【他動詞】 (10) ‘강조하다 (強調する)’ 【他動詞】 等々

25) その他には ‘漢字語+하다’, ‘漢字語+되다’ 以外にも ‘漢字語+만다’, ‘漢字語+당하다’ を持つと菅野裕臣他編 (1991²) で提示しているものが含まれている。以下はそれを整理した表である (割合は小数点第二位を四捨五入して、算出している)。

表. 同じ漢字語に疑似接尾辞 ‘하다’, ‘되다’, ‘만다’, ‘당하다’ がつくもの

	+ 하다	+ 되다	+ 만다	+ 당하다	その数
(1) 漢字語	○	○	○	○	23 個 (14.7%)
(2) 漢字語	○	×	○	○	8 個 (5.1%)
(3) 漢字語	○	○	×	○	39 個 (24.7%)

(4)漢字語	○	○	○	×	41 個 (25.9%)
(5)漢字語	○	×	○	×	25 個 (15.8%)
(6)漢字語	○	×	×	○	19 個 (12.0%)
(7)漢字語	×	○	○	×	1 個 (0.6%)
(8)漢字語	×	○	×	×	1 個 (0.6%)
(9)漢字語	×	×	×	○	1 個 (0.6%)
合計					158 個 (100%)

(○はその疑似接尾辞を伴うことを表し、×はその疑似接尾辞を伴わないことを表す)

26) 崔昌玉 (2007)を概観しても、現代朝鮮語の ‘-이-, -히-, -리-, -기-’ 受動文の出現が少なく、実際の用例として受動文を収集することが難しいことがうかがえる。本稿では、あくまでも動作の主体と客体を存在論的卓立性という観点から考察するものであって、例文をどのようなジャンルのものから収集したか、それぞれのジャンルのもので現代朝鮮語の能動文と受動文がどのように現れるかを考察するものではない。これについては今後の課題である。

27) 菅野裕臣 (1995:237)では、団体名詞を意志動詞を述語とする文の主語 (助詞 -에서による)となる名詞と規定しており、その例として ‘당 (党)’, ‘국가 (国家)’, ‘학교 (学校)’ をあげている。また菅野裕臣 (1991²:1040)では、意志動詞を (聞き手に対する命令を表す)命令法、(聞き手に対する勧誘を表す)勧誘法を取りうるものと規定している。

28) 菅野裕臣他編 (1991²)では、その動詞が ‘I -고 있다’ と ‘III 있다’ どちらもを取り得るのか、あるいは ‘I -고 있다’ しか取り得ないかを1つ1つの動詞に標示している。ただし、菅野裕臣他編 (1991²:864)では、‘통치되다 (統治される)’ が ‘I -고 있다’ と ‘III 있다’ どちらも取り得るとしているのに対して、浜之上幸 (1991:70)では、‘통치되다 (統治される)’ が ‘I -고 있다’ しか取り得ないとしている。このような相違はまだ数多く存在するように思われる。本稿では、このような相違を考察し、記述することはできなかった。これらの1つ1つの動詞をアスペクト的観点から考察することは今後の課題とする。

29) 日本語文法学会 (2014:122)では、狭義の可能を定義しており、動作主がその行為をしようという意図を持った場合にその行為が実現するだけの許容性、萌芽がその状況の中に存在するとする。また、日本語文法学会 (2014:258)では、自発を通常意志的に行われる行為が、行為主体が意志しないのに (意志に反して)実現することと意味論的に規定する。本稿もその規定に従い、議論を進めることにする。

30) 現代朝鮮語の相互構文を考察した崔昌玉 (2010a:7)では、相互をその動作が2つ以上の関与者によって成し遂げられ、それぞれの関与者を相互者と呼んでいる。更にそこでは、相互を各々の相互者が何らかの意志をもって、同じ遂行をすることを意味すると規定する。本

稿もその意味論的規定に従い, 議論を進めることにする。

用例を収集した文献一覧

민족문화연구원 용례검색기: <http://db.koreanstudies.re.kr/>(略号민を使用する。)

연세대학교 언어정보개발연구원 편 (1998) (略号연を使用する。)

조선일보 (1993 年, 1994 年の記事から例文を収集し, 略号는을を用いる。)

小学館・金星出版社共同編集 (油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎編) (1993) (略号소を使用する。)

参 考 文 献

국립국어원 (2005) 『외국인을 위한 한국어 문법 2』 서울: 커뮤니케이션북스.

기타무라 다다시 (1997) 『한국어 피동 표현 연구』 서울: J & C.

김홍수 (1998) 「피동과 사동」 『문법 연구와 자료』 서울: 태학사, 621-664.

남수경 (2011) 『한국어 피동문 연구』 서울: 월인.

裴禧任 (1988) 『國語被動研究』 서울: 高麗大學校民族文化研究所.

서울大學校 大學院 國語研究會 編 (1990) 『國語研究 어디까지 왔나』 서울: 東亞出版社.

서정수 (1996) 『국어문법』 서울: 한양대학교출판원.

연세대학교 언어정보개발연구원 편 (1998) 『연세 한국어사전』 서울: 두산동아.

우인혜 (1997) 『우리말 피동 연구』 서울: 한국문화사.

이상익 (1999) 『국어의 사동・피동구문 연구』 서울: 집문당.

이정택 (2004) 『현대 국어 피동 연구』 서울: 박이정.

홍재성 편 (1997) 『현대 한국어 동사 구문 연구』 서울: 두산동아.

安薫蓮 (2017) 「韓國語의受動態を作る接辞の使用 (1) — 「tanghata」と 「patta」を中心に —」 『言語文化研究』第36号第2号 愛媛: 松山大学, 187-365.

生越直樹 (1982) 「日本語漢語動詞における能動と受動 — 朝鮮語 hata 動詞との対照 —」 『日本語教育』48 東京: 日本語教育学会, 53-65.

_____ (1992) 「韓國人日本語学習者のボイスに関する誤用 — 漢語動詞の誤用を中心に —」 『横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター紀要』8 神奈川: 横浜国立大学, 159-166.

_____ (2001a) 「現代朝鮮語の하다動詞における하다形と되다形」 『朝鮮文化研究』8 東京: 東京大学朝鮮文化研究室, 75-94.

_____ (2001b) 「하다動詞の하다形・되다形の使い方について — インフォーマント調査の結果から —」 『梅田博之教授古稀記念論文集 韓日語文学論』 서울: 태학사, 533-554.

亀井孝・河野六郎・千野栄一編 (1996) 『言語学大辞典 第6巻 [術語編]』東京: 三省堂.

菅野裕臣 (1982) 「朝鮮語 (ヴォイス)」 『講座日本語学 10』東京: 明示書院, 280-291.

- _____ (1995)「朝鮮語語彙のクラスをめぐって」『朝鮮文化研究』2 東京：東京大学朝鮮文化研究施設, 229-248.
- _____ (2007²;1981)『朝鮮語の入門』東京：白水社.
- 菅野裕臣・早川嘉春・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人共編, 金周源・徐尚揆・浜之上幸 協力 (1991²;1988)『コスモス朝和辞典』東京：白水社.
- 国立国語研究所 (1997)『日本語における表層格と深層格の対応関係』東京：三省堂.
- 工藤真由美 (1990)「現代日本語の受動文」『ことばの科学 4』東京：むぎ書房, 47-102.
- _____ (1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現』東京：ひつじ書房.
- 柴公也 (1986)「漢語動詞の態をいかに教えるか—韓国大学生に対して—」『日本語教育』59 東京：日本語教育学会, 144-156.
- _____ (1992)『『漢字語+시키다』について—再帰性・他動性・使役性・受動性との関わりをめぐって—』『朝鮮学報』第144輯 天理：朝鮮学会, 87-150.
- 小学館・金星出版社共同編集 (油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎編) (1993)『朝鮮語辞典』東京：小学館.
- 崔昌玉 (2007)『現代朝鮮語のヴォイス接尾辞について—音韻論的, 形態論的, 統辞論的, 意味論的観点を中心に—』千葉大学博士論文 (未公刊), 千葉：千葉大学.
- _____ (2010a)「現代朝鮮語の相互構文」『韓国語學年報』第6号, 千葉：神田外語大学, 1-39.
- _____ (2010b)「現代朝鮮語の受動文の類型— ‘-으-, -히-, -리-, -기-’ による派生を中心に—」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』第12号 千葉：千葉大学ユーラシア言語文化論講座, 83-105.
- _____ (2013a)「現代朝鮮語の使役文—接尾辞による派生を中心に—」『松山大学 言語文化研究』第32巻第2号, 愛媛：松山大学, 31-63.
- _____ (2013b)「現代朝鮮語のヴォイス—機能=意味論的観点を中心に—」『松山大学創立90周年記念論文集』愛媛：松山大学, 433-461.
- 日本語文法学会 (2014)『日本語文法事典』東京：大修館書店.
- 浜之上幸 (1991)「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』138 天理：朝鮮学会, 1-93.
- _____ (1992)「現代朝鮮語の「結果相」=状態パーフェクト—動作パーフェクトとの対比を中心に—」『朝鮮学報』142 天理：朝鮮学会, 41-108.
- 浜之上幸 (2016)『現代朝鮮語のアスペクト論』(未公刊)
- 朴敬玉 (1999)『『漢字語+する』と『漢字語+ hata』『漢字語+ toyta』—日本語と朝鮮語の対照—』神田外語大学修士論文 (未公刊), 千葉：神田外語大学.
- 韓有錫 (1990)「漢語動詞「-スル」と「-toeda」の日韓対照研究」『名古屋大学国語国文学』67

愛知：名古屋大学国語国文学会，103-120.

- Asher, R.E. (1994) *The Encyclopedia of Language and Linguistics*, Oxford, New York, Seoul, Tokyo: Pergamon Press.
- Bondarko, A.V. (1975) "On Field Theory in Grammar-Diathesis and its field-", *Linguistics-an international review*- 157: 43-65.
- _____ (1991) *Functional Grammar: A Field Approach*, New York: John Benjamins.
- Comrie, B. (1976) *Aspect*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Comrie, B. and M. Polinsky (eds) (1993) *Causatives and Transitivity*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Croft, W. (1990) *Typology and Universals*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Dixon, R.M.W. (1979) "Ergativity", *Language* 55.1:59-138.
- _____ (1994) *Ergativity*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Dixon, R.M.W (ed.)(1976) *Grammatical Categories in Australian Languages*, Canberra: Australian institute of Aboriginal studies.
- Kemmer, S. (1993) *The Middle Voice*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Klaiman, M.H. (1991) *Grammatical Voice*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Kiefer, F. (ed.) (1973) *Trends in Soviet Theoretical Linguistics*, Dordrecht, Boston : D. reidel publishing company.
- Kulikov, L. (ed.) (1998) *Typology of Verbal Categories*, Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
- Lyons, J. (1977) *Semantics 1*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Nedjalkov, V.P. (ed.) (1988) *Typology of Resultative Constructions*, Amsterdam: John Benjamins.
- Nedjalkov, V.P. and S.J. Jaxontov (1988) "The typology of resultative constructions", In V.P. Nedjalkov (ed.)(1988), 3-62.
- Nedjalkov, V.P. and G.G. Silnitsky (1973) "The typology of morphological and lexical causatives", In F. Kiefer (ed.) (1973), 1-32.
- Nedjalkov, V.P. and V.P. Litvinov (1995) "The St Petersburg/Leningrad Typology Grop", In Shibatani, M. and T. Bynon (eds) (1995), 215-271.
- Shibatani, M. (1988) *Passive and voice*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- _____ (1988) "Voice in Philippine languages", In M. Shibatani(1988), 85-142.
- Shibatani, M. and T. Bynon (eds) (1995) *Approches to Language Typology*, Oxford : Oxford University Press.
- Silverstein, M. (1976) "Hierarchy of features and ergativity" In R.M.W. Dixon (ed.)(1976), 112-171.
- Svartvik, J. (1966) *On Voice in the English Verb*, The Hague: Mouton.
- Trask, R. L. (1993) *A Dictionary of Grammatical Terms in Lingusitics*, London and New York: Routledge.

Xolodovič, A.A. (ed.) (1969) *Tipologija kauzativnyx konstrukcij: Morfologičeskij kauzativ*, Leningrad : Nauka.

Xolodovič, A.A. (ed.) (1974) *Tipologija Passivnyx Konstrukcij: Diatezy i zalogy*, Leningrad: Nauka.